

与謝野晶子自筆杉並区立桃井第二小学校校歌・関係資料



〔指定年月日〕 平成二六年二月二六日

〔種別〕 有形文化財（書跡）

〔名称〕 与謝野晶子自筆杉並区立桃井第二小学校

校歌・関係資料

〔点数〕 二点

〔所有者等〕 杉並区教育委員会

〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

与謝野晶子自筆杉並区立桃井第二小学校 校歌・関係資料

歌人の与謝野晶子（一八七八〜一九四二）が作詞を手がけた
東京市桃井第二尋常小学校（現、杉並区立桃井第二小学校）の
自筆校歌歌詞と、晶子が校歌の作成経緯を自ら記した「校歌発
表の日に」の原稿からなる。

歌詞は、七・五調の文語定型詞。一・二番では、学校のある
「都の西の荻窪」の自然景観を描写し、三番は、子供の将来は
祝福した内容となっている。晶子の歌詞に、作曲家の山本直忠
（一九〇四〜一九六五、山本直純の父）が曲をつけて制作され
た校歌は、現在も同校で使用されている。

「校歌発表の日に」原稿は、昭和二年（一九三六）一〇月
二七日に制定された校歌の発表会で、晶子が用いたと考えられ
る読み上げ原稿である。原稿には、桃井第二小学校の校歌を作
詞した経緯や、作詞を通じて、子供に対する意識が変化したこ
となどが記されている。校歌の作詞については、当初、晶子の
夫の与謝野鉄幹（一八七三〜一九三五）が作詞を依頼されてい
たものの、鉄幹が没したため、第二代校長の花田長次郎から晶
子が改めて依頼を受けたとしている。晶子によれば、桃井第二
小学校校歌は、自らが初めて手がけた小学校の校歌であった。
桃井第二小学校校歌は、小学校のある荻窪・武蔵野の自然環
境や特質を、同じ荻窪地域に住む晶子が描写したものであり、
作詞の経緯を物語る「校歌発表の日に」の自筆原稿も残されて

【文化財所在地】



いる。また、校歌は現在も使用されており、晶子の詩魂は今
なお現代の子供たちの成長に寄与し続けている。これらの諸
点からみて、晶子の自筆校歌歌詞と「校歌発表の日に」自筆
原稿は、ともに関連が深く、区の重要な文化財である。